

研究推進委員会通信

令和元年6月6日

6月3日（月）に第1回授業研究会が開催されました。この研究会には、白鳥町内の小・中学校から4名、郡上市教育委員会から1名、そして助言者として、岐阜大学教職大学院の三島晃陽先生が参加してくださいました。

授業はコミュニケーション英語Ⅱで実施されました。本校の研究目標である「読解力育成」のために、海外アーティストの曲をグループごとに解釈し、ポスター形式で発表し意見交流させる授業でした。



授業研究会では様々な意見が出ました（感想については次号）。授業者の中原先生は「生徒に活動させるのは難しい、思ったように授業できなかった」など、葛藤や苦悶に満ちたコメントをされましたが、私たち教員が学生時代に受けてきていない新しい形の授業「主体的・対話的で深い学び」への転換（授業改善）には、これまでの固定概念を取り払っていかねばならないわけですから、試行錯誤をしていく必要があります。今回の授業はどの教科においても新しい形の授業だということで参考になったのではないのでしょうか。また、中学校では「郡上学」、高校に入学してからは「クエストエデュケーションプログラム」で探究型の学習をしてきた生徒が、学んできたことを各教科でどのように活用できるのかを生徒自身に実感させるのかという、縦横の学びの系統性を意識した内容だったことも、本校の研究主題に合致していました。

岐阜大学の三島先生からは、society5.0 に向けて、授業改善の新たな視点をいただきました。資料を熟読し、今年度のうちに「主体的・対話的で深い学び」の授業の質を高める挑戦をしてみてください。

生徒が学ぶ意義を見出す（主体的な学びの）ためには、多様な考えとの交流（対話的な学び）から自分が何者かを客観的に考え（メタ認知）、確固たる自分自身をもつために必要なアイデンティティを確立することが必要だと思います。自信をもって意見を交流していくことが、質の高い追究（深い学び）にもつながっていくと思います。